

# 研究者として、牧師として互いに支え合ってきました。 ここで、また、二人の新しい人生が始まりました

佐倉(ゆうゆうの里)

安藤 俊就様(79歳)・博子様(73歳) 平成29年9月 夫婦入居

「牧師の夫にはなれないよ」と  
言った夫が・

奥様 結婚前はスポーツジムの企  
画の仕事をしていました。あまり  
に忙しくて体を壊し、辞めようと  
思った時に夫とお見合いしました。  
そのときに「どんなお仕事です  
か」と聞くと、10分ほどじっと黙っ  
ていた後「次世代のための研究で  
す」と答えたんです。  
ご主人 日本原子力研究所にい  
て、私がかやっていたのは「核融合  
炉の開発」です。太陽は核融合で  
光っているし、宇宙の星々も大部



小樽教会の牧師を務めていた頃の博子様とご主人

分は核融合で光っています。それ  
なら「地球上に太陽のようなもの  
を作ろう!」という研究です。私  
がかやっていたのは、核融合でき  
たエネルギーを閉じ込めておく超  
電導の装置を作ることでした。

奥様 結婚以来、ずっと主婦の15  
年が経ち、夫に牧師になりたいと  
伝えると「クリスチャンの夫には  
なれるけれど、牧師の夫にはなれ  
ないよ」と。

ご主人 そんなこと言ったかな。  
奥様 ところが実際には、本当に  
助けてくれて感謝でいっぱいです。  
ご主人 母も姉も仕事を持ってい  
て、女性が仕事をするのは

自然なことだったけど、牧  
師はちょっと予定していな  
かったかな。

## 私は単身赴任の牧師

奥様 牧師になるため、日  
本基督教団立の東京神学  
大学に学部2年、大学院  
に2年。その間学校近くに  
アパートを借り勉強しまし  
た。夫には随分と不自由を

させてしまい  
ました。教会  
の主任牧師に  
なると、その  
教会の地に住

まなければなりません。私  
の任地は北海道の小樽教会、次が  
山梨県の富士吉田教会でした。夫  
と私は茨城県のひたちなか市に住  
まいがあり、私は現役の夫を残し  
て単身赴任です。小樽教会時代、  
夫は飛行機で小樽まで飛んでき  
て、教会のことから信徒の方々の  
送迎まで手伝ってくれました。信  
徒の婦人の方々から「俊就さんは  
今度いつお見えになるの」と聞か  
れるほどの人気者でした。

介護になっても最後まで一緒に  
いられるところ

奥様 私たちは、どちらかが介護  
が必要になっても、施設内に介護  
棟があって、行き来しながら、最  
後まで二人でいられるところがいい  
なと決めていました。ここに2  
回目に来た時に、職員の方も入居  
者の方も何しろ明るい。「これだ!」  
と。実際に入居して2年目のこと、  
夫が体調を崩した時、すぐ救急車  
を手配して、年末の受け入れが難



しい時にも関わらず、病院  
に事情を話して点滴を受け  
られるようにしていただき  
ました。自分一人ではあ  
はできません。守られてい  
る安心を感じました。  
夫がこんなに夢中になっ  
てやる人だとは

奥様 入居して料理もして  
いますよ。いつも「今日のお料理  
は何点?」と聞きます。夫は「ま  
あまあ」とか、「70点」「80点」な  
んて言ってますね。

ご主人 サークルは卓球・謡曲・  
民謡をやっています。卓球は声  
をかけてくれた先輩入居者が一生懸  
命勧誘し、教えてくれました。最  
初はやれると思っただけなのに  
すが、だんだん打てるようになって、面白くなりました。市民カレ  
ッジにも参加しています。地元の方々  
と知り合えるのが楽しいですね。

奥様 自身は入居する2年前か  
ら牧師から無任所教師に退いてい  
ました。心が辞める方向に向かっ  
ていたのです。でもここに来たら、  
職員の皆様から「私たちが支える  
からどうぞやってください」と、  
温かくて強力な援護射撃をもらっ  
て、また牧師の仕事を見せて頂い  
ています。それに夫がこんなに夢  
中になっっているなことをやる  
人だったと、それはまた新たな発  
見でした。